

## 活動報告

# 平成20年度 JA 新潟県厚生連 臨床検査技師会・病理検査研究班活動報告

長岡中央総合病院、病理部；臨床検査技師

かた ぎり おか みつ  
片桐 丘充

平成20年度 JA 新潟県厚生連臨床検査技師会春季・秋季研修会における病理検査研究班分科会活動を報告する。

### 1. 【平成20年度 JA 新潟県厚生連臨床検査技師会春季研修会・病理検査研究班分科会】

日時：平成20年6月1日（日）

会場：長岡中央総合病院病理部

担当：病理検査研究班班長・長谷川秀浩技師（長岡中央総合病院病理部）

内容：

マイクロウェーブを用いた特殊染色の迅速化

マイクロウェーブ（家庭用電子レンジ）を使用して、通常の方法では時間がかかる特殊染色の迅速化について報告があった。

検討された染色法

①グロコット染色 ②PAM（過ヨウ素酸メセナミン）染色 ③H・E（ヘマトキシリン・エオジン）染色 ④コンゴ赤染色 ⑤ムチカルミン染色 ⑥アルシアン青染色 ⑦ベルリン青染色 ⑧グリメリウス染色 ⑨マッソン・トリクローム染色

①から⑧についてはマイクロウェーブを使用することにより染色時間が大幅に短縮することができた。⑨については完成間近とのこと。

マイクロウェーブの使用は様々な染色法に应用が可能で、これにより業務効率の向上が期待される。

### 2. 【平成20年度 JA 新潟県厚生連臨床検査技師会秋季研修会・病理検査研究班分科会】

日時：平成20年11月9日（日）

会場：長岡中央総合病院病理部

担当：病理検査研究班班長・長谷川秀浩技師（長岡中央総合病院病理部）

内容：

診断から治療へー今、病理検査に求められているのは？ー

オーダーメイド医療における癌の分子標的療法と病理検査との関わりについて、特に大腸癌における治療薬アービタックスと抗EGFR免疫染色を中心に報告があった。

従来の抗癌剤治療では個々の患者様の特性にかかわらず治療が行われ、場合によってはつらい副作用に耐えなければならなかった。これに変わって個々の患者様の特性にあった治療薬を用いる分子標的療法が注目されている。

病理検査では分子標的療法の適用を調べるために免疫染色を利用した方法が一部の疾患において応用されている。（乳癌のHER2検査など）

最近、大腸癌においてEGFR（上皮成長因子受容体）に作用する分子標的治療薬アービタックスが注目されている。この適用を調べるための抗EGFR免疫染色キットの使用・結果の判定の諸注意について説明があった。

今後、このような治療に直結する病理検査の更なる発展が期待される。

2008/12/18 受付（2008-28）